

アメリカ派遣留学のすべて

私は、昨年の8月から12月まで、アメリカ・ミズーリ州にある、ノースウェストミズーリ州立大学に留学してきました。そこでは、英語力の向上はもちろんのこと、自分の視野や、価値観が大きく広がり、国際教養を深めることができました。今回は、アメリカ留学のきっかけから始まり、留学までの流れ、アメリカでのキャンパスライフ、また帰国後のこともお話したいと思います。

実をいうと、私はこの大学に留学した理由の1つは、「派遣留学」があるからでした。幼いころから英語が好きで、ずっと勉強してきたため、留学願望は昔から自然とありました。そのため、両親は私の気持ちを応援してくれ、留学に行くことを承諾してくれました。今、留学を考えている人の中には、金銭面で悩んでいる人もいます。これに関しては、留学参加者に、大学からの奨学金を受け取ることができます。これは、給付型ですので、返還義務ありません。また、私の家も特別裕福というわけではありませんでしたので、日本学生支援機構から毎月いただいている奨学金や、両親からの援助等を利用し、留学費用をまかなうことができました。さらに、昨年度から110万円を2分割で支払えることができるようになったため、私もこの制度を活用し、留学前と留学後に半額ずつ払いました。この制度があるかないかは、気持ちのゆとりが大きく違うと思います。

そんな中、春休みを挟んで2年生が始まったころ、派遣留学参加者の応募がありました。対象は、成績に関する一定の条件を満たした学生で、CEPの単位等がとれていない学生は行くことができませんでした。その後、応募が締め切られると、面接がありました。面接は日本人の教員2人に対し、1人が個室で面接を行うというもので、質問内容は、志望理由から始まり、日々の学生生活の様子、アメリカでどんなことを学びたいか等を質問されました。面接の際には、自分のこれまでの成績を見ながら判断されます。面接を無事合格すれば、いよいよ、留学に行く学生として扱われます。留学参加者のセミナーやミーティングが毎週のように実施され、留学に選ばれた人は、すべてのプログラムに参加しなくてはなりません。

しかしながら、数ある集まりの中で、おそらく皆が苦戦しているのは、VISA申請だと思います。アメリカに90日以上留学する場合は、学生ビザ(F1)という許可書のようなものを取得しなくてはなりません。取得するためには、パソコンでF1VISAを申請し、直接、東京にあるアメリカ大使館にて面接を受けます。とは言うものの、VISA申請はセキュリティの関係もあり、大変時間がかかりました。早くても、3時間くらいはかかったと記憶しています。様々な細かい個人情報を入力しなくてはいけないため、あらかじめ個人情報を紙に用意しておいたほうがいいです。また、アメリカ大使館までの交通費は自費でしたので、残念なことに自分で払わなくてはなりません。無事、アメリカ大使館からの許可が下りると、約1週間程度で登録した住所にパスポートに印字されたVISAが送られます。

この手続きは、夏休み前までに終わらせておく必要があります。なぜなら、VISA が印字されたパスポートを学務課に提出したり、アメリカの大学に送ったりする都合があるからです。

もう1つ、大変なステップといえば予防接種が挙げられます。アメリカ渡航前に、MMR（風疹、おたふく、麻疹）の予防接種を受けなくてはなりません。幼いころに接種した人は大丈夫なのですが、接種していない人は、自費で医者に行き、接種をしてもらう必要がありました。また、アメリカ渡航後すぐに、髄膜炎の予防接種も義務付けられました。

これを乗り越えれば、あとは留学の身支度です。夏から冬の初めにかけていくため、服装に大変悩みました。けれど、先輩方のアドバイスを参考に、夏物と秋物（羽織るカーディガンや薄手のコート）を持っていきました。実際に、アメリカは日本よりも寒くなるのが遅く、昼間でも10月の初めまではTシャツで過ごしても問題なかったと記憶しています。スーツケースに入る荷物の重量もありますから、アメリカに到着後落ち着いてから日本から送ってもらったほうが良いと思います。しかし、アメリカは日本とは違い、「エコ」という概念に乏しいため、天候に関係なく、朝からガンガンエアコンをつけています。屋内はどこもエアコンがきいていて、日本人にとってはかなり寒いので、羽織るものや薄手の長そでを最初から持っていくことをおすすめします。

では、大体の留学の準備についてお話ししたところで、いよいよ、留學生活の中身に入っていきたいと思います。アメリカでは、大学付属のESLと呼ばれる語学学校のようなところで勉強します。ESLとは、English as a Second Languageの略で、名前の通り、英語を第2言語として勉強する人が通う場所です。後期は金曜日も休みでしたが、基本的には平日9時から15時まで、1コマ45分間学習しました。学生は、NUISの学生をはじめ、中国人、韓国人、サウジアラビア人がいました。初めは、自分の英語が通じるか自信がなく、緊張しましたが、彼らも、私たちと同様にノンネイティブスピーカーですので心配ありません。むしろ、アメリカ人よりもゆっくりと簡単な文法で話すため、多少の間違ひはあっても言いたいことは伝わり、すぐに打ち解けることができました。



ESL 全員で記念撮影！

そんなインターナショナルな環境で、毎日英語力向上に向けて、英語の4つの技能である、リスニング、リーディング、文法、そしてスピーキングをとにかく勉強しました。リスニング、リーディング、文法に関しては、アメリカの文化や歴史、または法律や社会問題を取り上げたテキストに沿って学んでいきます。このようなテキストを使うことで、英語力が高まるだけでなく、国際的な教養と、視野を大きく広げることができました。また、授業スタイルで日本と大きく異なることは、授業にしっかり参加することが求められるということです。CEP 同様、自分から手を挙げて積極的に発言することがアメリカのスタイルであり、彼らは日常的にこうしたスタイルで授業をしています。参加態度を見せなければ、成績は加点されないのがアメリカの授業スタイルに馴染むことが大切です。スピーキングに関しては、週に2度、**Conversation Partner** という時間があります。これは、アメリカ人1人に対し、日本人2人で1時間英会話をするというものです。会話のテーマは様々で、私のグループでは、動物の話、お互いの文化紹介、大学のイベント、映画や音楽の話などその日の気分でおしゃべりしました。英語で1時間話すため、最初の頃は頭が回らずに大変な思いをしましたが、この時間のおかげでスピーキング力とリスニング力が大いにアップしたと思います。リスニングは、日本でも CD で聞いていますが、現地の方が話す英語はスラングが多く使われ、訛りも入っているので CD で聞く英語とは全く違います。CP は私の誤学力向上の大きな要素となりました。



私のペアと conversation partner

アメリカでは、主に寮生活をしました。基本的に、1部屋に対し2人で共同生活をします。私は、アメリカ人の女の子と同じ部屋で生活しました。はじめは、アメリカ人と同じ部屋ということで、常に英語を話す環境に置かれ、英語力がアップする絶好の機会だと思っていました。しかしながら、彼女とは、生活環境が全く異なっていました。テレビを消して静かな暗い中で寝るという私に対して、一晩中テレビをつけっぱなしで音量を下げぬまま寝る彼女。11月に長そで毛布にくるまって寝ている私に対して、半袖でエアコン21℃のまま寝ている彼女。初めのころは、あまりに生活スタイルが異なっていたので、それ

が相当なストレスとなり、彼女との関係も大分険悪でした。けれども、お互いに話し合いを繰り返し、譲歩策をとる中で次第に仲良くなりました。同時に、これこそ異文化理解なのではないかと感じることができました。180度違う生活に合わせるのは至難の業のように思えますが、それを理解し、受け入れたことで、何か大きなものを得た気がしました。そのため、彼女との共同生活は、私にとって非常にプラスの経験になりました。



私のルームメイト

私の留学生活の中で、最も印象に残っていることは、**Thanksgiving week** にホームステイをしたことです。この派遣留学プログラムの一環として、**Thanksgiving Day** である11月の第4木曜日に合わせ、約1週間大学が休みになり、その間、ホストファミリーのお宅に滞在するというものがあります。私は、もう1人の NUIS の学生とともに近くのお宅にホームステイしました。彼らは、私たちを温かくもてなしてくれ、“**Make yourself at home**” 自分の家のようにくつろいでね。といつも言ってくれました。また、彼らは大変留学生に寛容な家だったため、**Thanksgiving Day** 本番には、私たち以外にもインド、ネパール、サウジアラビア、アメリカ、中国の留学生が一堂に集まり、一緒にランチパーティーを行いました。大きなお家でしたが、20人以上の人がごったがえしていたため、非常に賑やかなパーティーとなりました。今となっては、あんなにいろんな国籍の人が一堂に会していたあの空間は私にとって、本当に夢のようだったと思います。



International Thanksgiving

さらに、別の日には、私たち日本人2人で彼らに日本食を振る舞いました。日本から持参にしたさぬきうどんや、つゆ、そして白玉粉でうどんと白玉を作りました。うどんの具に関して、アメリカのスーパーでは日本と同じものが売っていなかったのですが、知恵を絞って、“なんちゃってかきたまうどん”を作りました。白玉は問題なく作れましたが、あんみつにあまり馴染みがないと思ったので、代わりにクランベリーソースやチョコレートソースも用意しました。日本食を食べた彼らは、**I like it! Really good!** と、褒めてくれました。中には、あまり美味しくないと感じた人もいたようですが、手作りの日本食を振る舞ったことは、日本を紹介するという意味で非常に良い機会だったと思います。



キッチンで白玉をこねる私たち

そんな楽しい日々もあっという間に終わりました。帰国後、すぐにクリスマスやお正月があり、気づけば1月になりました。誰もが、留学中に自分の語学力の伸びを感じ、英

語を話さなくてはいけないこの環境から離れること、つまりせっかく積み上げた語学力が日本帰国後に低下してしまうことに対し不安を感じます。語学力を維持させるためには、学習を継続していくしかないと思います。そのため、帰国前に、アメリカを離れることへの寂しさも感じつつ、帰国後の学習プランをしっかりと考えることがキーだと感じます。日本に帰れば、美味しいご飯があり、慣れ親しんだ環境に戻ることはできますが、その代わりに、英語、特にスピーキングに関しては全くと言っていいほど、英語を話せるチャンスがありません。12月下旬に帰国し、3年生が始まるまで、留学期間と同じ、約4か月あります。語学力を維持させるためには、何かしらの対策を帰国前に考えておく必要があると思います。

以上が、私の留学の一連の流れです。この報告書が、少しでも皆さんのお役に立てば嬉しいです。Thank you so much!